

コミュニティ・ファシリテーター認定プログラム
説明会ハンドアウト
2009.1.31

— 持続可能なコミュニティ・組織を目指す人のつながりと学びへ —

*A dream you dream alone
Is only a dream
A dream you dream together
Is reality*

Yoko Ono

今、なぜコミュニティ・ファシリテーションか？

多様で複雑なこの時代、解決不可能にも見える問題が次から次へと現れる中、私たちは、いかに持続可能な選択と行動ができるのでしょうか？

そのためには、次の2つの課題についてこたえていく必要があるでしょう。

1. 信念や価値観の異なる者どうしの対立・衝突にいかに取り組み、共に生きていくことができるのか。
2. さまざまな組織・グループ・コミュニティが、解決不可能に見える多様で複雑な問題に取り組む『チーム』としていかに成長し、機能できるのか。

各個人がどのような選択や行動をすとしても、多様で複雑な価値観の衝突する今、私たちは「いかに異なる価値観の人と協働できるか」という課題に取り組むことを避けられません。そういった意味で、これら2つの課題がもはや避けられない人類の最優先の命題であるというのはい過ぎではないでしょう。

さまざまな場で、コミュニティ・ファシリテーションの視点や手法をもった人の存在が求められています。なぜならコミュニティ・ファシリテーションは、異なる価値観を大切にしながら問題に取り組んでいくための視点と手法をもっているからです。

ファシリテーションとコミュニティファシリテーション

ファシリテーションとは

ファシリテーション (Facilitation) は、組織を活性化したり、会議を円滑に進めたり、組織をいい状態に変えていったりする技術です。近年、ビジネス分野の組織マネジメントや会議、地域の市民活動分野、行政主催の参加者主体の話し合い活動、ワークショップや教育分野などの体験活動、コミュニティ組織開発・運営など、その分野は広がっています。

参考：ファシリテーターのスキルタイプ／活用分野／役割
(堀公俊著／問題解決ファシリテーターP.24 を参考に編集)

- ◎ 問題解決型 (ビジネス・政治分野)
お互いの問題の理解と共感を促進し、創造的な問題解決につなげる
- ◎ 合意形成型 (社会活動・学術分野)
意見を引き出し、異なる意見を統合してコンセンサスにつなげる
- ◎ 体験学習型 (自然・環境分野)
共通の成果に向けたチーム活動を通じて自立的な学習を即す
- ◎ 教育研修型 (ビジネス・社会教育・学校教育分野)
同じ体験を共有し自ら感じることを通じて関心を引き起こして行く
- ◎ 自己表現型 (アート・芸能分野)
異質なメンバー同士あるいは演じ手と観客の相互作用を促進させ、新しい作品を想像して行く
- ◎ 自己変革型 (ビジネス・生活分野)
メンバー相互の関係を活性化させ、潜在的な能力や内なる可能性に気づきを与えて自己変革を即す

コミュニティ・ファシリテーションとは

一般的なファシリテーションのスキルを学んだとしても、いったん異なる状況になってしまうと活用できないケースや、ファシリテーターという権限がない個人としては活用できないケースなどを耳にします。逆にファシリテーションを学んだことがない人でも、その人の言動が場を和ませ場を元気にすることがあります。

このような事実に注目すると、ファシリテーションとはスキルだけでなく、「人を愛し、人がもつ力を信じ、そして人と人とはつながりあえるものだ」と信じている心そのもの」だともいえます。

コミュニティ・ファシリテーションでは、このようなファシリテーターの「人間力」をエルダーシップ (長老的あり方) とよび、その育成に重点を置いています。つまりコミュニティ・ファシリテーションとは、ファシリテーターとしての特権の有無やグループの大小、種類、そして身近な人間関係から社会的な組織まで幅広く取り組める人間力のようなものに焦点を当てた、新しいパラダイムと方法論です。

コミュニティ・ファシリテーションの特徴

- ・ 井戸端会議から世界紛争まであらゆる人と人の関係がコミュニティ・ファシリテーションの対象となります。
- ・ 会議の議題や数字など目に見えるものと同じように、グループの背後に隠れている潜在的な問題や感情など「目に見えないもの」も大切にします。
- ・ コミュニティ・ファシリテーションは、組織・グループだけでなく同時に個人の内面をもファシリテートします
- ・ コミュニティ・ファシリテーションは、表面的な問題だけでなく、組織・グループ・コミュニティが抱える傷や痛みを扱う側面もあるので、グループを対象にした「カウンセリング・セラピー」と言い換えることもできます。
- ・ コミュニティファシリテーターは、一時的にファシリテートするだけでなく、グループそのものを育成します。結果的には自分たち自身でファシリテートできるような組織力を高めるファシリテートを行ないます。

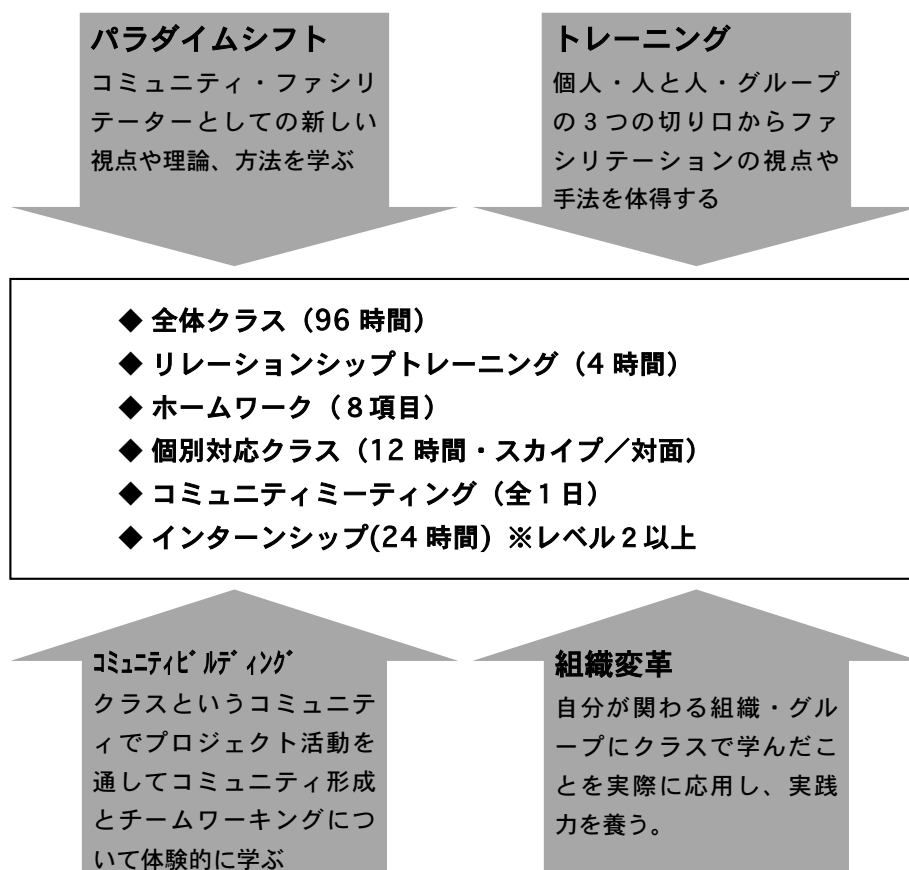
認定プログラム概要

プログラムの目的

認定プログラム(CFCP)の目的 CFCP は、あらゆる葛藤に勇気をもって取り組み『多様性・全体性・持続可能性』を尊重するコミュニティ・ファシリテーターの育成として、自己・人と人・グループという重なり合う複雑な状況を捉える理論を体験・実践を通して学ぶことで、あらゆる場面に活用できるコミュニティ・ファシリテーションの実践的なスキルの習得を目指します。

カリキュラム構成

認定プログラムはレベル1からレベル3、そしてファカルティ（講師育成コース）の4段階のレベルがあります。各レベルの学びには最低1年かかりますが、コミュニティ・ファシリテーターとしての内面的な成長、基本的な視点とスキル、あらゆる場面に対応できる応用力の習得を成立させるために、実践的な学びをサポートするプログラム構成上必要な最低限の時間であると考えています。このプログラムは、どのレベルのコースも下記で構成されており各要素は互いに作用し合い、学びをより深くしていくものです。



学びのポイント

■ クラスを通してコミュニティづくりを学ぶ

認定プログラムではクラス自体を「コミュニティ」と考えます。長期的なクラスで時間を共にすることで、クラスメンバーは互いに内面の深い部分や個人的な傾向を共有するので、これまで人生で避けてきた問題やコミュニティで起こりうるさまざまな問題に直面することもあるでしょう。

組織・グループ・コミュニティに取り組むということは、自分の中の多様性を広げていくことと同じことなのです。したがって、コミュニティ・ファシリテーターとして成長しようとすることは、これまでの自分が目を背けてきたような課題に向き合うことを意味します。クラスの共に学び合う仲間として、その問題をコミュニティ・ファシリテーションの視点・手法、そして実際のワークで互いにファシリテーターとして乗り越えていくことで、コミュニティの自己組織化する力への信頼を築き上げていくこととなります。

■ 気付きを促すプロセスアプローチトレーニング

コミュニティに起こるあらゆる問題に取り組む方法として、全体クラスでは「プロセスアプローチ」で行なうグループワーク（対話を中心としたグループによる取り組み）を多く行ないます。葛藤や衝突を、場の変容・成長のためのプロセスととらえるコミュニティ・ファシリテーターへと成長するために、この自分の中に起きてくること、場に起きてくることに、そのこと自体がどうなるかとしているのかを探究しながら進めていくグループワークを行なうことで葛藤に取り組むための勇気と信頼を養います。また、自分の傾向を知ったり、ニュートラルな視点を育てたりしてファシリテーターとしての自信を得ることにこのトレーニングは有用です。

■ エルダーシップを育てる4つの形式

認定プログラムにおいては、ファシリテーターの「エルダーシップ」を育てることに重きをおいています。エルダーシップ（長老的あり方）とは「多様性・全体性・持続可能性」を大切に、起こることを恐れずに信じる心のあり方です。エルダーシップを育てるために、さまざまなワーク※のクライアントや参加者としてファシリテートされる体験（セッション）とファシリテーターとしてプロセスアプローチでファシリテートする実習（スーパーヴィジョン：講師からのフィードバック）を行います。

※自分の内面に取り組むインナーワーク、対人関係の構築を促進する関係性のワーク、対話の場などのグループワーク

■ 講師とピアグループのサポート

実際1年間のカリキュラムを通して多くの学びと気づきがあるでしょう。しかし自己への気づきとファシリテーターとしての成長の過程（自己変容のプロセス）では、時として心の痛みと混乱を伴うこともあります。この場合のサポートとして個別対応クラスを活用してください。また、自分が関わる組織・グループでの実践についてのサポートとしても個別対応クラスの時間を活用できます。原則的に1対1のセッションでサポートを行ないます。

また認定プログラムでは少人数グループ（ピアグループ）を作ります。私たちがもっている傾向について最小単位であるピアグループは多くの学び深いプロセスを生み出します。こういった自分の傾向性について知るだけでも大きな学びですが、同時にその傾向性に取り組んで行く力はコミュニティ・ファシリテーションを支える基礎となる力になります。ピアグループは、共に学び合う仲間と学びを支え合うだけでなく、ピアグループでの取り組みそのものがファシリテーターのトレーニングとなります。

認定プログラム概要

クラス開催日程

■ 個別対応クラス・全体クラス・試験

○個別対応クラス（対面）：9:00～12:00 の間で個別に設定 ※要予約

○全体クラス・試験：13:00～19:00

第1回：	3月14日（土）／15日（日）
第2回：	4月11日（土）／12日（日）
第3回：	5月16日（土）／17日（日）
第4回：	6月20日（土）／21日（日）
第5回：	8月22日（土）／23日（日）
第6回：	10月3日（土）／4日（日）
第7回：	11月7日（土）／8日（日）
第8回：	12月19日（土）／10日（日）
試験：	1月16日（土）／17日（日）

※第2回は合宿を予定しています。

■ リレーションシップトレーニング：10:00～16:00の間で個別に設定 ※要予約

第1回：	4月26日（日）
第2回：	4月26日（日）
第3回：	10月25日（日）
第4回：	11月29日（日）

■ その他 選択参加

CF ギャザリング（宿泊）	7月18日（金）／19日（土）／20日（日）
コミュニティ・ミーティング	12月5日（土）

開催場所

全体クラス：東京都内

個別対応クラス：東京都内・スカイプ

※ 場所の詳細は参加者に都度お知らせ致します。

※ 予約後の個別対応クラスは、キャンセル料が発生致します。またご予約は先着順になります。

※ 個別対応クラスは希望があれば講師自宅でも可能です（茨城県笠間市／常磐線友部駅）

※合宿は、都内以外の場所になる場合があります。

参加費

年間参加費：268,000 円（前期：130,000 円／後期：138,000 円）

- ※ 前期参加費は初回講座日、後期参加費は第 5 回講座日までに指定の口座に振り込んで頂くか、手渡しをお願いします。
- ※ 参加費の最大 40%を労働交換に置きかえることが可能です。
- ※ 不足単位を補うための補講参加の場合別途参加費が発生致します。
- ※ 分割払いが可能です。詳細をお問い合わせ下さい。
- ※ 上記金額には合宿宿泊費・交通費、個別対応クラスキャンセル料及び補講追加参加費は含まれていません。
- ※ 期間内に労働交換を消化できない場合は協議の上、労働交換を継続することも別途現金支払いも可能です。

労働交換について

■ なぜ労働交換システムか？

研究所は、現在の資本主義システムについても新しい形を検討する時期にあると考えています。これは資本主義を否定することではありません。あくまでもお金が存在することの利点も尊重しながら、一方でコミュニティ形成を助けたり、コミュニケーションを生み出したりするような、お金を介在させないことの利点をもつシステムを探究しようというものです。

新しい持続可能なコミュニティ運営について、実際的に模索すること（プロセスアプローチ）が私たちの基本姿勢なので、お金を介在させないシステムの例（資本主義システムより多様な利点をもつ持続可能なシステム）の探究として、労働交換システムを運用しています。

みなさんがクラスやプログラムに参加し、労働交換システムを使うこと自体が、研究所との新しい持続可能なシステム探究の共同作業に加わることを意味します。みなさんからのフィードバックにより発展していく研究所の調査活動の一環でもあるのです。

加えて、コミュニティ・ファシリテーションの視点や手法をより多くの方々に提供したいという思いがあります。金銭的に苦しい方でも学ぶ意欲があれば学んでいただきたいのです。わずかでも興味・関心、未来への可能性を感じてくださったときは、気軽にご連絡ください。

■ 労働交換システムの概要

労働交換システムは、提供頂ける労働又は物品を相応額に換算し、参加費として計上するシステムです。研究所がプログラムを持続可能な形で提供できる現金をいただきながら、同時により多くの方の学びをサポートしたいと思っています。労働交換は今現在では、研究所と参加者の二者間だけの単純なやりとりになりますが、将来的にはさらに発展させていく計画です。

■ 労働交換システムの流れ

基本的には研究所の広報や講座の記録、プログラム企画などを労働量と相応額を決め定められた期間手伝って頂きます。またお持ちのスキルや物品を提案して頂き合意が形成されれば、それらも労働交換として換算されます。行なった労働はその都度換算額を記録するため事務局に申告する必要があります。労働交換システムはまだまだ始まったばかりのシステムです。全て話し合いを行い新しいアイデアを取り入れながら発展させていきたいと思っています。